

EDICOLOR 8.0 出力ガイド

—Windows 版—

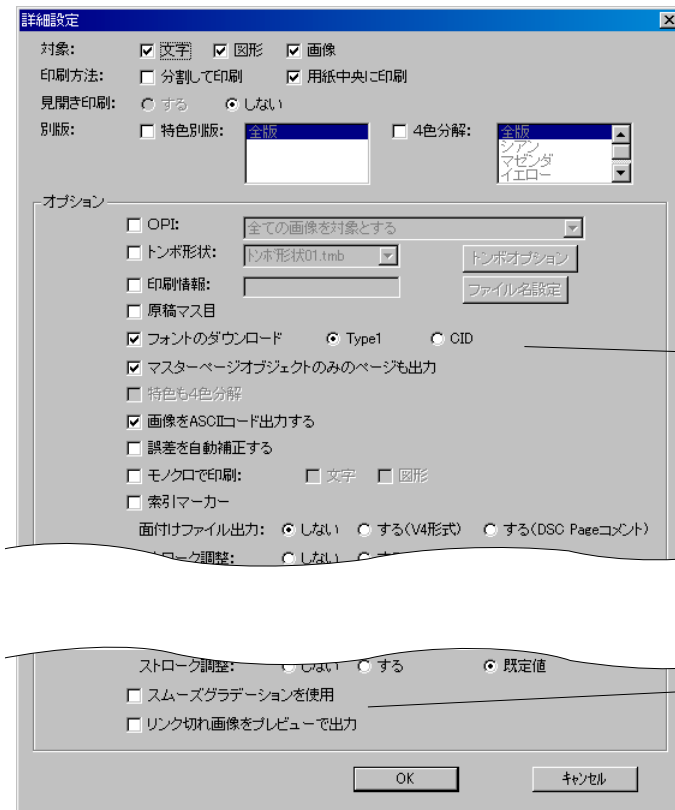
この出力ガイドは AdobePS を使用した
出力設定と注意事項を中心に記載しました。

● EDICOLOR 7.0.3 以降で追加された機能

- 1・定型サイズでの出力
- 2・カスタム用紙サイズでの出力
- 3・ネガ・ミラー出力
- 4・プリント
- 5・その他注意事項
- 6・FACILIS ver.3.0/ver.3.5 連動
- 7・PDF 作成手順
- 8・PDF 書出し
- 9・EPS 書出し

● EDICOLOR 7.0.3 以降で追加された機能

(EDICOLOR 8.0 のプリント画面)



フォントのダウンロード

「Type1」:従来のダウンロード形式(文字コードなし)

「CID」:ダイナミックダウンロード(文字コードあり)

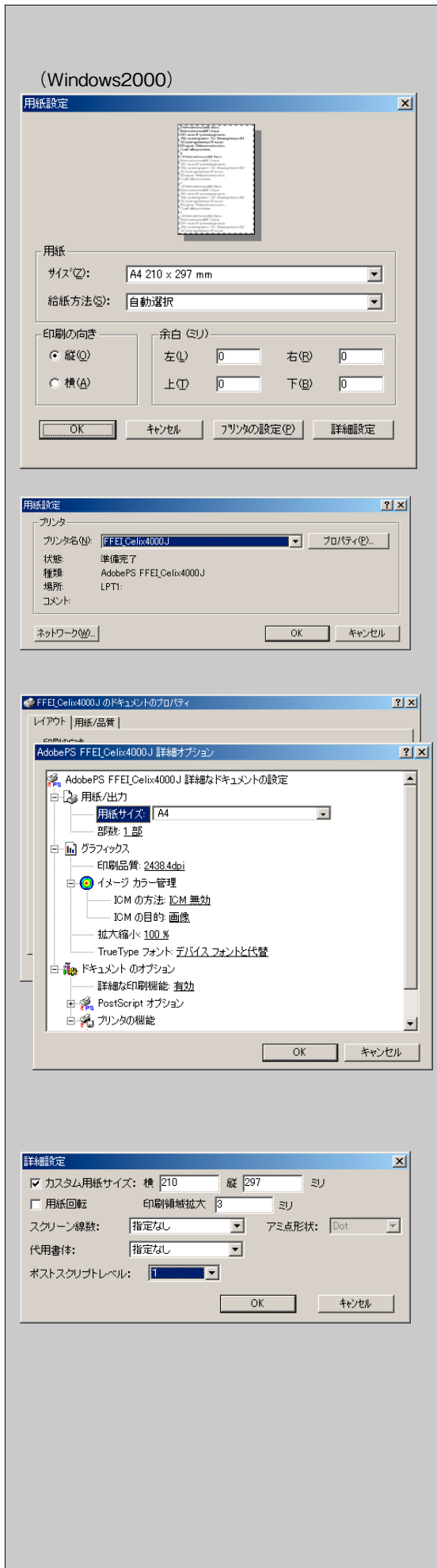
ダイナミックダウンロードで出力すると、従来のType1形式に比べて出力データサイズが小さくなります。また、書き出したPostScriptファイルをもとに作成したPDFファイルの中に文字コードが保存されるようになり、文字検索が可能となります。

スムーズグラデーションを使用

Acrobat Distiller 7.0を使って、グラデーション付きの多角形図形を含むデータをPDF化するときは、このスイッチをオンにしてください。また、プリンタおよびRIPに出力するときは、PostScript 3対応機種であることが必要です。PostScript Level 2以前の機種に出力するときは、オフにしてお使いください。

リンク切れ画像をプレビューで出力

画像のリンクが切れている場合、画面表示しているプレビュー画像を出力します。



(1) プリンタドライバの作成

Windows 用 AdobePS ユニバーサル インストーラを使用してプリンタドライバを作成します。詳細はユーザズガイドをご覧ください。

(2) プリンタの選択

「ファイル」メニューから「用紙設定」「プリンタの設定」で上記作成したプリンタを選択します。「プロパティ」を選択します。

1・定型サイズでの出力

● A5 縦長記事を定型サイズ A4 で正方向に出力する

(プロパティ-用紙)

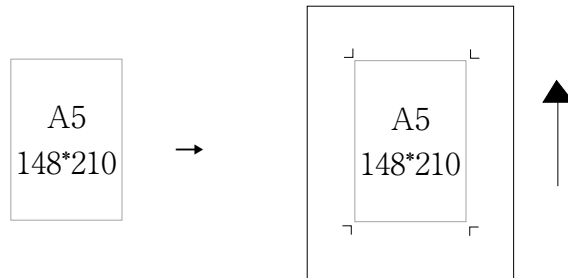
「用紙サイズ」：A4

「印刷の向き」：縦

(用紙設定-詳細設定)

「ポストスクリプトレベル」：1

「スクリーン線数」：出力する解像度・線数を選択します。



注意①

トンボを付けて出力する場合は作成された記事サイズよりも大きめの用紙を選択して下さい。トンボ形状の種類によりヒゲの長さが異なりますので注意して下さい。

注意②

ポストスクリプトレベルは出力機の機種に関係なく「1」しか選択できません。

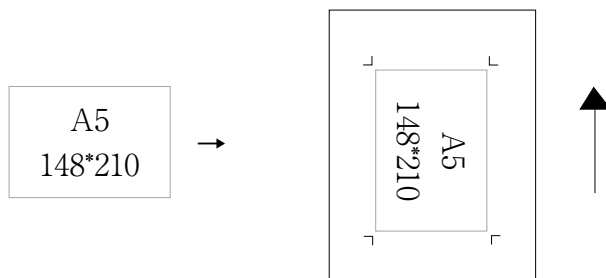
注意③

スクリーン線数を選択しないと、解像度・線数は RIP のデフォルトが適用されます。また、4色分解した場合は各版のアミ点角度は全て RIP のデフォルト 45度で出力されてしまいます。よって、印画紙（ブラック版のみ）出力の場合でも必ずスクリーン線数を選択して、4色分解で「ブラック」のみを選択して出力する必要があります。

● A5 横長記事を定型サイズ A4 で正方向に出力する

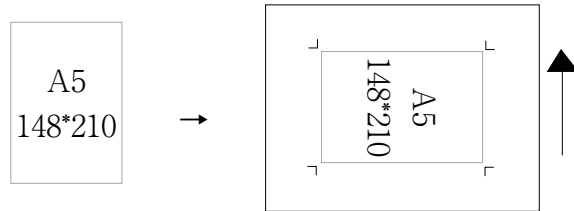
上記設定で

「印刷の向き」：横を選択します。



● A5 縦長記事を定型サイズ A4.Transverse で回転して出力する

「用紙サイズ」：A4.Trans を選択します。
「印刷の向き」：縦



注意①

縦長記事を回転（横向きで）して出力するには、定型サイズの「**.Transverse」を使用します。サイズを A4 と同じになりますが、回転した方向で出力されます。

注意②

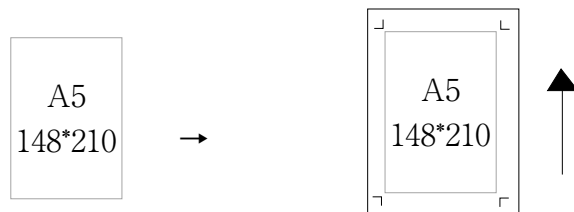
「**.Transverse」を使用した場合の「方向」はほとんどの場合は「正」になりますが、PPD ファイルによっては「**.Transverse」が横長のサイズの場合があります、この場合は「方向」：「横」を選択する必要があります。

2・カスタム用紙サイズでの出力

1. エディカラーの場合、「カスタム用紙サイズ」を使用する事で記事サイズに対してトンボ・タイトルを含めた最適な出力領域を指定する事ができます。カスタム用紙サイズを使用する事で印画紙・フィルムを効率良く使用することができます。

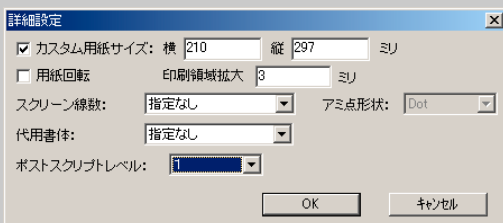
● A5 縦長記事をカスタム用紙サイズで正方向に出力する

(プロパティ-用紙)
「用紙サイズ」：A4
「印刷の向き」：縦
(用紙設定- 詳細設定)
「ポストスクリプトレベル」：1
「カスタム用紙サイズ」：331*244
(トンボを含めた縦／横サイズ)
「スクリーン線数」：出力する解像度・線数を選択します。



注意①

「カスタム用紙サイズ」を使用する場合は作成された記事サイズに関係なくプリントダイアログの「用紙」は必ず「A4」を選択して下さい。



● A5 縦長記事をカスタム用紙サイズで横方向(回転)に出力する

1. 「カスタム用紙サイズ」で横方向(回転)に出力する場合は出力する機種や使用する PPD ファイルによって2通りの方法があります。ユーザー様ご利用機種がどちらの方法で正常に出力されるか、事前にご確認下さい。(設定1)で回転不正な場合は(設定2)を試してみてください。

2. 前ページの正方向を基準として「カスタム用紙サイズ」縦:331、横:244を入力して、「印刷の向き」のみ「横」を選択します。自動的に「カスタム用紙サイズ」の入力値が入れ替わります。

(設定1)

「用紙サイズ」: A4

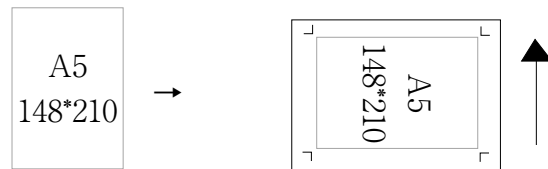
「印刷の向き」: 横を選択します。

「ポストスクリプトレベル」: 1

「カスタム用紙サイズ」: 244*331

(トンボを含めた縦/横サイズ)

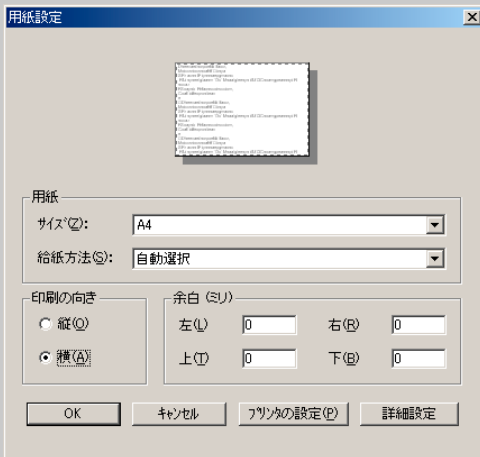
「スクリーン線数」: 出力する解像度・線数を選択します。



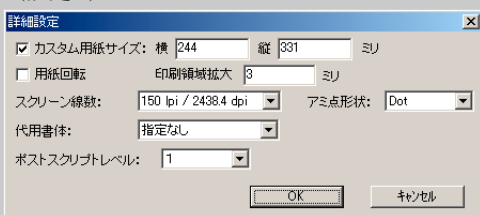
(設定2)

上記設定のまま

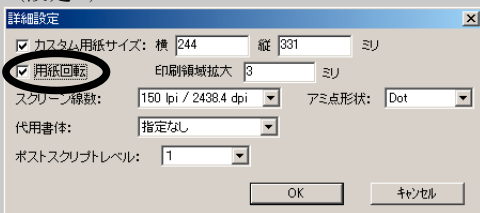
「用紙回転」: チェックします



(設定1)



(設定2)



3. ネガ出力・ミラー出力

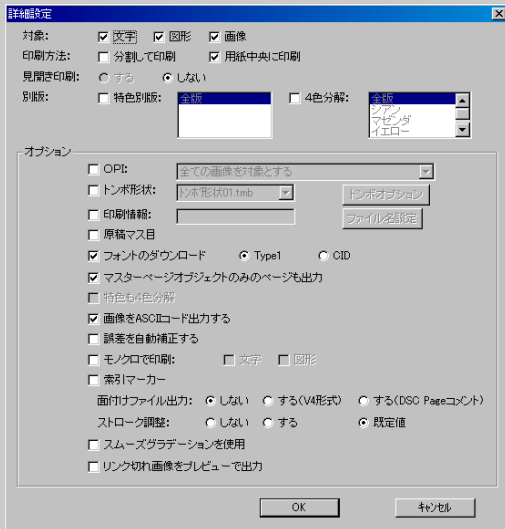
(1) プロパティの設定-2

「プロパティ」内「詳細」の「PostScript オプション」内の「左右反転印刷」や「プリンタ機能」内のミラープリントしてください。

ネガ・ミラー出力はご利用の PPD により使用できない場合がありますので予めご了承下さい。

4・プリント

各項目の説明は「ユーザーズガイド」をご覧ください。
ここでは注意点のみをご説明します。



注意①

OPI チェックボックスは Windows 版エディカラーでは使用しません。画像すり替え機能を利用した出力を行う場合、必ず粗画像フォーマットを EPS にして、エディカラーに貼り込み OPI チェックは使用せずに出力を行って下さい。(粗画像を含む出力になります)

注意②

特色版を使用される場合、エディカラーでは特色のアミ点角度は PPD ファイル内に記載されている 1 つのみになります。特色が 2 つ以上使用されている場合は同角で出力されますので、RIP 側でデフォルト解像度・線数・アミ点角度を変更し、エディカラーの「スクリーン線数」は「指定なし」を選択して特色を 1 版づつ出力して下さい。

注意③

印画紙出力の場合でも「用紙設定」で「スクリーン線数」を選択して、「4色分解」にチェックし、「ブラック」を選択して出力して下さい。「スクリーン線数」は分解出力時のみ有効です。コンポジット出力では RIP 側のデフォルト解像度・線数・アミ点角度で出力されます。

5・その他注意事項

注意①

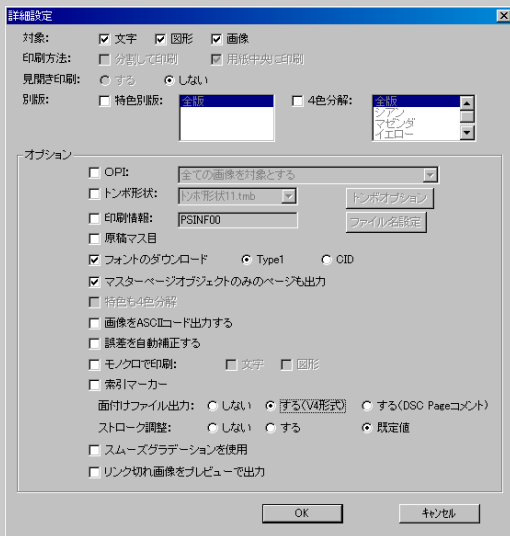
旧バージョン 2.2 では「ポストスクリプトレベル」で「2」を選択する事ができますが、「1」を使用して下さい。
「2」を使用した場合、各メーカーの RIP にり、体裁が崩れて出力される事があります。

6・FACILIS ver.3.0/ver.3.5 連動

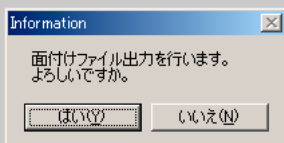
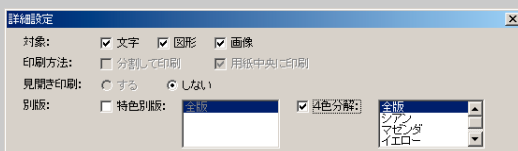
エディカラーから作成した PostScript ファイルを Macintosh 版 FACILIS で面付けを行う事が出来ます。

PostScript 系のプリンタドライバをご利用下さい。

(コンポジット PostScript ファイルを作成する場合)



(分解 PostScript ファイルを作成する場合)

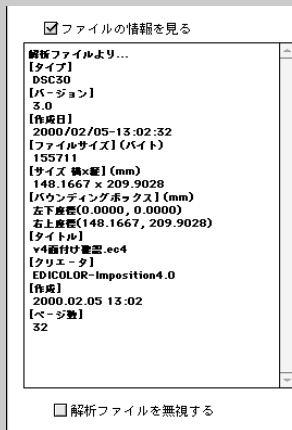


(1) 用紙設定を行う

- ① ファイルメニューから「用紙設定」を選択します。
- ② 「プリンタの設定」で上記設定したプリンタを選択し「OK」します。
- ③ 「用紙」サイズは「A4」を選択します。
※作成した記事サイズに関係なく「A4」用紙を選択するようにして下さい。
- ④ 「詳細設定」を選択します。
- ⑤ 「カスタム用紙サイズ」は使用しません。
- ⑥ 「印字領域拡大」は裁落として必要な数値を入力します。「0」を指定すると FACILIS で指定した裁落としての値が優先されるようになります。
- ⑦ スクリーン線数やアミ点形状は FACILIS の方で設定できますのでエディカラーでは指定しないで下さい。

(2) プリントで PostScript ファイルを作成する。

- ① ファイルメニューから「プリント」を選択します。
- ② 「詳細設定」を選択します。
- ③ 対象：文字 / 図形 / 画像、全てチェックする。
- ④ 印刷方法：全てチェックしない。
- ⑤ 見開き印刷：「しない」をチェックする。
単ページ記事は不要。
- ⑥ 特色別版 / 4色分解：必要に応じてチェック
コンポジット PostScript ファイルを作成する時はチェック不要です。
分解 PostScript ファイルを作成する場合のみチェックして下さい。
- ⑦ OPI：Windows 版エディカラーでは使用しません。
- ⑧ フォントのダウンロード：必ずチェックして下さい。
- ⑨ 面付けファイル出力：必ず「する」チェックして下さい。
「V4 形式」か「DSC Page コメント」かは FACILIS のバージョンに応じて切り替えて下さい。
- ⑩ 「詳細設定」を OK します。
- ⑪ 「ファイルへ出力」にチェックし OK します。
面付けファイル出力時には必ず Information 画面が表示されます。
- ⑫ 作成された PostScript ファイル (拡張子 .ps) を Macintosh へコピーします。



注意①

(OPIを使用する場合)

Windows 版から画像すり替え (OPI) を行う場合はレイアウト画像 (粗画像) のフォーマットは EPS を使用して下さい。

なお、プリント画面「詳細設定」の「OPI」はチェックを付けないで下さい。

注意②

(面付け PostScript ファイル、ファシリスでの確認方法)

「面付けファイル出力」にチェックして作成された PostScript ファイルを FACILIS で取り込む際、X-Plate「プロジェクト」メニューの「面付け対象ファイルの登録」で「クリエータ」が「EDICOLOR-Imposition」である事を確認して下さい。

注意③

「面付けファイル出力」にて作成される PostScript ファイルはエディカラーの記事サイズで出力されます。よって FACILIS のレイアウトで設定する「仕上がりサイズ」では同じサイズで設定して下さい。

注意④

エディカラー 3.0.5 と FACILISver.3.0 の組み合わせの場合には対応した「X-Plate」が必要です。

7-①・PS ファイルからの PDF 作成手順

●エディカラーのカスタム用紙サイズを使用する方法

プリンタフォルダ内に「Adobe PDF」プリンタドライバが作成されている事を確認してください。

※「Adobe PDF」プリンタドライバは Adobe Acrobat6.0 以上をインストールすると作成されます。

※ Adobe Acrobat5.0 の場合は「Acrobat Distiller」プリンタドライバを使用して下さい。

(1) 用紙設定での設定

ファイルメニューから「用紙設定」を開き、「プリンタの設定」を開き「プリンタ名」で「Adobe PDF」を選択し「OK」します。用紙サイズ：A4 を選択します。

「詳細設定」を開き、カスタム用紙サイズをチェックし横 / 縦を入力し「OK」し「用紙設定」を閉じます。

(2) PS ファイル作成

ファイルメニューから「プリント」を選択し、「ファイルへ出力」をチェックし「OK」して下さい。

※「Adobe PDF」ドライバのプロパティを開き、「フォントを送信しない」を OFF にして下さい。

(3) PDF への変換

Acrobat Distiller6.0 のファイルメニューから「開く」でエディカラーの PS ファイルを選択し、PDF を作成します。

注意①

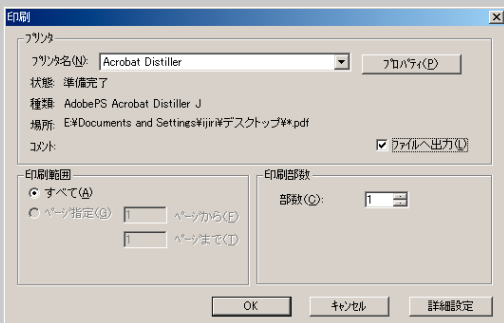
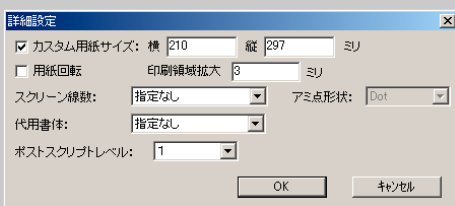
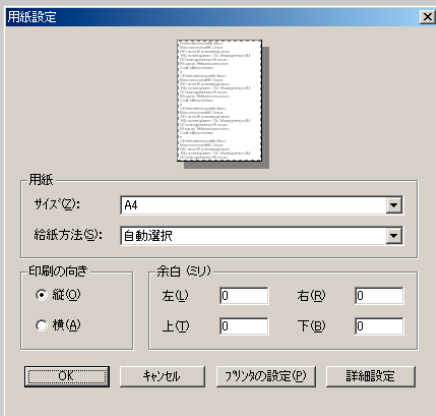
プリンタフォルダ内の「Acrobat PDFWriter」は使用しないでください。

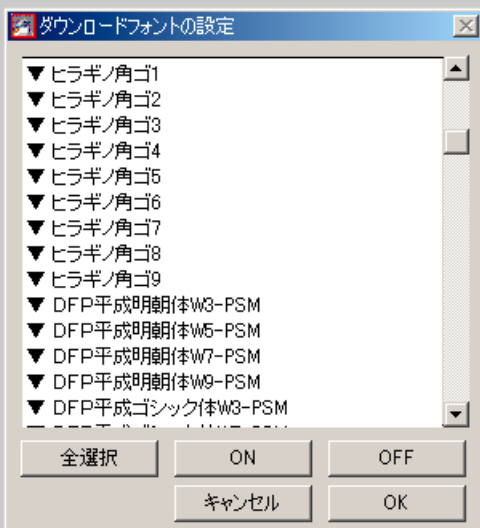
注意②

「Adobe PDF」ドライバを使用して直接プリントする事で PDF を作成する事も可能です。ただし、実行中の時間が長くなる事がありますのでご注意ください。

注意③

作成した PDF を Adobe Acrobat から GDI プリンタ出力した際に、墨文字にアミ点が出る場合があります。Distiller のジョブオプション「カラー」タブでカラー設定を設定してから PDF を作成して見てください。





7-④・エディカラーで作成した PDF について

- フォントダウンロードにて作成された PDF は環境に関係なく、その書体で画面表示が可能になります。
- AFM ファイルの無い OpenType フォントや TrueType フォント (MS 明朝や MS ゴシック他) はダウンロード機能にて無条件に埋め込まれます。
- フォントダウンロード「Type1」にて埋め込まれた文字 (書体) は PDF 上で検索する事はできません。
- PDF 容量を軽くする場合や PDF 内の文字検索を可能にする場合は、フォントダウンロード「CID」を使用して下さい。

「Type1」：従来のダウンロード形式 (文字コードなし)

「CID」：ダイナミックダウンロード (文字コードあり)

- AFM ファイルと TrueType フォントがマッチングしている書体 (ヒラギノ書体やイワタ書体や DFP 書体) は「ファイル」メニューの「ダウンロードフォントの設定」にて書体名にチェックを付けてフォントダウンロードして PostScript ファイルを作成して下さい。
- AFM ファイルのみの PostScript フォントは Windows 用のフォントが無いため「Acrobat Distiller」にて PDF 変換する際に PS エラーになり欧文フォントに置き換わって作成されますので注意して下さい。
- Acrobat Distiller 7.0 を使って、グラデーション付きの多角形図形を含むデータを PDF 化するときは、「スムーズグラデーションを使用」をオンにしてください。

8・PDF 書出し

【PDF 書出し】ダイアログの詳細設定

※各設定項目でプリント関係と重複している項目の説明を省略しています。

[PDF バージョン]：PDF のバージョンを指定します。

[画像圧縮]：画像の圧縮方法と解像度の種類・dpi を指定します。

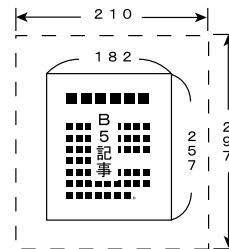
[用紙サイズ]：PDF のページサイズを設定します。

[カスタム]：任意のカスタムページをサイズを設定します。

例)

記事サイズ：B5

カスタム：210×297

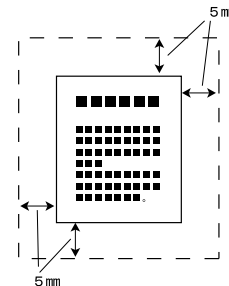


[領域拡大]：記事サイズの上下左右の拡大量を設定します。

例)

記事サイズ：B5

領域拡大：10mm



※「カスタム」及び「領域拡大」ともに定義されたサイズの中央に記事は配置されます。

[フォントのダウンロード]：システムにインストールされているフォントの記事内で使用している場合、そのフォントをダウンロードして印刷します。

Type1：従来のダウンロード形式（文字コードなし）

CID：ダイナミックダウンロード（文字コードあり）

ダイナミックダウンロードで出力すると、従来の Type1 形式に比べて出力データサイズが小さくなります。また、書き出した PostScript ファイルをもとに作成した PDF ファイルの中に文字コードが保存されるようになり、文字検索が可能となります。

【詳細設定】ダイアログ

(【PDF 書出し】ダイアログの【詳細設定】ボタンをクリックすると表示されます。)

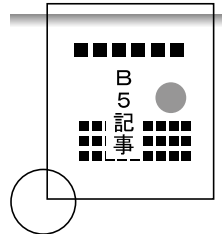
9・EPS 書出し

【EPS 書出し】 ダイアログ

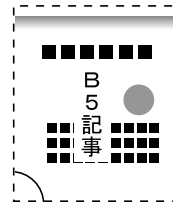
※各設定項目でプリント関係と重複している項目の説明を省略しています。

【書出し領域】：EPS ファイルとして書き出す領域を設定します。

例)

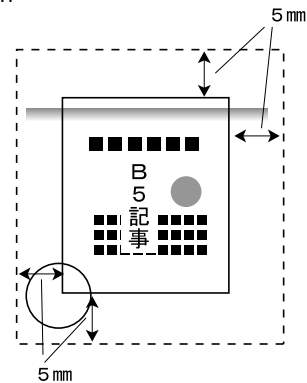


【ページ矩形】：記事サイズを領域として書出します。



【ページ矩形+塗り足し】：記事サイズ+上下左右の塗り足し量を設定します。

上下左右：5mm



【選択オブジェクトを囲む矩形】：選択されたオブジェクトを囲む領域で設定します。

円の図形2つを選択して書出した場合

